

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平5-11902

(43) 公開日 平成5年(1993)1月22日

(51) Int.Cl.⁵

G 0 6 F 3/02

識別記号

3 2 0 C 7313-5B

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全2頁)

(21) 出願番号 特願平3-167869

(22) 出願日 平成3年(1991)7月9日

(71) 出願人 000004237

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号

(72) 発明者 板谷 周

東京都港区芝五丁目7番1号日本電気株式

会社内

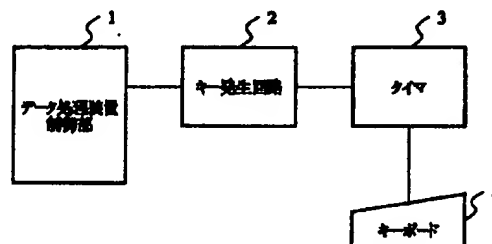
(74) 代理人 弁理士 内原 晋

(54) 【発明の名称】 キーボード制御方式

(57) 【要約】

【構成】 利用者がキーを押し続けた場合、同一キーコードを発生するキーボード4において、キーを押下している時間を測定するタイマ3と前記タイマの値によってキーコード発生間隔を変えるキー発生回路2とを有している。

【効果】 キーの押下時間によってキーリピート間隔を変化(短く)させる事により大量の同一文字を入力力する場合、高速に入力できる。



BEST AVAILABLE COPY

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 利用者がキーを押し続けた場合、同一キーコードを発生するキーボードにおいて、キーを押下している時間を測定すタイマと、前記タイマの値によってキーコードの発生間隔を変える手段とを有することを特徴とするキーボード制御方式。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は情報処理装置におけるキーボード制御方式に関し、特にキーリピート間隔制御に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来の情報処理装置のキーリピート間隔時間制御は、あらかじめシステムまたは利用者が固定的に定めた時間により制御していた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 上述した従来のキーリピート間隔制御は、あらかじめ設定された時間で文字コードを発生するので、大量の同一文字コードを発生する場合時間がかかるという欠点がある。特にカーソル移動を行う場合同一キーを押し続ける場合が多く時間がかかる。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明のキーボード制御方式は、利用者がキーを押し続けた場合同一キーコードを発生するキーボードにおいて、キーを押下している時間を測定するタイマと前記タイマの値によってキーコード発生間隔を変える手段とを有している。

【0005】

【実施例】 次に本発明について図面を参照して説明する。

2

【0006】 図1は本発明の一実施例を示すブロック図である。キーボード4はデータ入力を行う装置である。タイマ3はキーボード4のキーが押下された時より時間の測定を開始し、キーが戻された時にリセットされる。キー発生回路2はキーボード4で押下されたキーのコードをデータ処理装置制御部1へ通知する。

【0007】 次に動作について説明する。

【0008】 利用者が例えば 'A' というキーを押し続けるとタイマ3は押し続けた間の時間を測定する。キー発生回路2はまず 'A' のキーコードをデータ処理装置制御部1に通知する。その後タイマ3の値を監視しタイマ3の値が3秒以下の場合には0.5秒おきに、3秒超過5秒以下の場合には0.4秒おきに、5秒超過10秒以下の場合には0.3秒おきに、10秒以上の場合0.2秒おきに 'A' のキーコードをデータ処理装置制御部1に通知する。

【0009】 以上説明したタイマ3の値とキーコード発生間隔の関係は一例であり、関数を変える事によりキーコード発生間隔を変化させる事が可能である。

【0010】

【発明の効果】 以上説明したように本発明はキーの押下時間によってキーリピート間隔を変化（短く）させる事により大量の同一文字を入力する場合、高速に入力できるという効果がある。

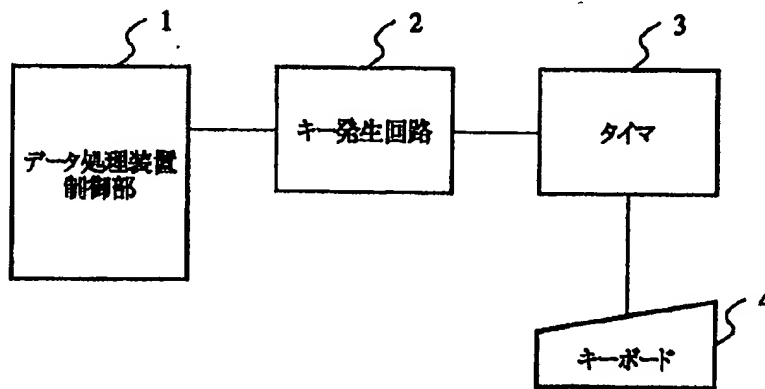
【図面の簡単な説明】

【図1】 図1は本発明のブロック図である。

【符号の説明】

- 1 データ処理装置制御部
- 2 キー発生回路
- 3 タイマ
- 4 キーボード

【図1】



BEST AVAILABLE COPY